

ドッキリ！ にっこり！ 私の非日常体験

ハラハラ…のち、ほっ。



決済に間に合わせるため 結婚の保証人に

札幌宅商(株) (札幌市豊平区) 経営企画室本部企画課係長 土門 知紘氏

当社の古株社員の経験談です。20年ほど前のある日、上司から「今から区役所に印鑑持って来い」と電話で呼び出されました。急いで向かうと、なんとマンションを購入されたお客さまの結婚保証人になれといわれたのです。

当時、購入資金の融資申込先は住宅金融公庫が一般的。ローン契約までに入籍を済ませていることが融資条件だったのに、決済直前、そのお客さまが、婚姻届をまだ出していないことが発覚したのです。売買契約時に未入籍だったため「ローン契約までに入籍を」ときちんと言明したそうですが…。

今、婚姻届を出さないと間に合わない。

そこで区役所へ。しかし、婚姻届には保証人の署名が2人分必要。1人目はその上司が署名。ではもう1人は…。最初は区役所の待合所で座っている市民の方に「すみません！この2人結婚して入籍するんです！保証人をお願いできませんか？」と上司は片っ端から声をかけていったそうです。しかしことごとく拒否され、仕方なく部下を呼び出したというわけでした。

無事入籍を済ませ、そのお客さまは融資手続きを完結することができました。結婚の保証人はマンションの購入先の営業マンとその部下。きっとお客さまにとっても一生忘れない出来事となったことでしょう。



孤独死か？ びくびくしながら 扉を空けたら…

(有)火ノ口不動産 (千葉県柏市) 取締役社長 火ノ口 弘毅 氏

ある日、当社に一本の電話がかかってきました。当社の管理物件にお住まいのAさんの勤務先の同僚の方から、「Aがここ数日、会社に出勤してこない。電話をしても出ない」と…。

嫌な予感がしました。過去に発生した孤独死の現場の光景が頭をよぎりました。警察に

連絡を入れ、警官立ち会いのもと、呼び鈴を鳴らし、その部屋のカギを開けたところ…。

目に入ってきたのは、ぎっくり腰で動けなくなっていた入居者の姿でした。腰の痛みで動けず、うなっていました。それでも命に別状はなく。ほっと胸をなでおろしましたね。